

沿岸漁業等における漁獲情報等のデジタルデータ基盤の構築

松本 浩文¹（研究代表者：写真）

¹ 水産研究・教育機構 水産大学校 海洋生産管理学科



研究の目的

近年、ICT（情報通信技術）などの先端技術により漁獲情報等のデータをデジタル化することで、漁業現場が抱える様々な課題を解決できるようになりました。本研究は、デジタル化された漁獲情報を活用することで、地域の条件を活かした活力ある沿岸漁業を目指します。

研究の成果

延縄漁船向けアプリを開発し、漁獲情報のデジタル化を実現しました（図1）。



図1 デジタル化のイメージとアプリの画面

専用スイッチ(図2)を押すことで、魚が「いつ・どこで・どれだけ」漁獲されたのかを効率よく収集し、活用することができます。漁場の水温、電気伝導度、深度を計測するCTDを導入し、漁獲情報と環境情報の紐づけにも取り組みました(図3)。



図2 アプリの専用スイッチ

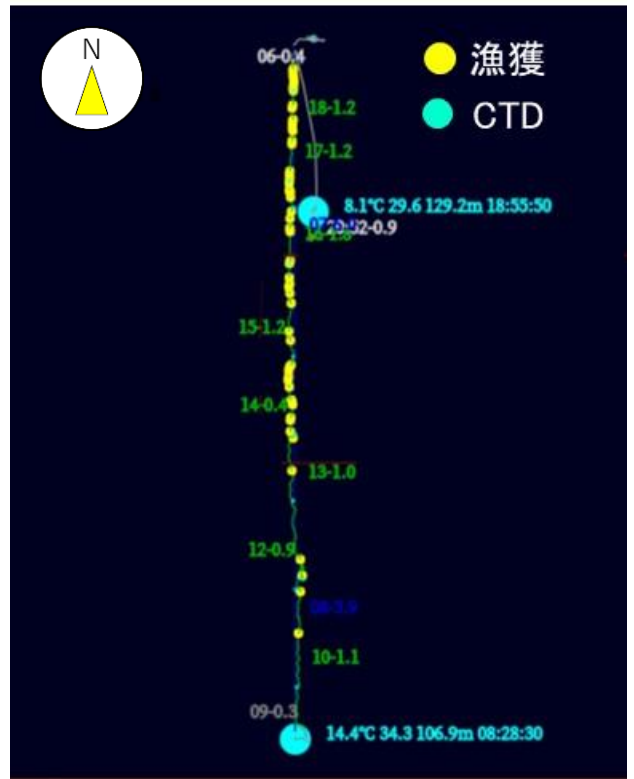


図3 漁獲情報と環境情報を統合した漁場画面の一例

波及効果・政策提言

- 漁獲情報に環境情報が統合されることで、新たな活用方法が期待されます。魚種登録を変更することで、他漁業種類にも応用可能です。
- 今後、生産現場(川上)の情報を加工・流通(川中)とリアルタイムにつなげていくことで、生産コストや運搬トラックの手配などの流通コスト削減にも寄与します(図4)。



図4 研究成果の波及効果